

伝統工芸でグッドデザイン賞受賞 現代に通用する技と証明される

長い曲げわっぱ職人人生を過ごし、そろそろ引退も考える年齢になったが、腕試しのつもりで、あきた産業デザイン支援センターの後押しで応募した今年度のグッドデザイン賞。見事受賞して手づくりへのこだわりが評価された。

昔の職人氣質で手づくりにこだわる

曲げわっぱと言えば、言わずと知れた秋田県大館市の伝統工芸品であるが、旧田代町の特産品でもあり、かつて旧田代町岩瀬(現大館市岩瀬)には多くの曲げわっぱ職人がいた。しかし現在は九嶋郁夫さんの工房「九嶋曲物工芸」のみになった。

この道一筋60年の九嶋さんは手づくりにこだわり、指で触っても引っかかりのないような滑らかな手触りの曲げわっぱづくりを続けている。

丁寧な仕事と工夫が評価を得る

今年度のグッドデザイン賞では、秋田県内4社5点の曲げわっぱ製品が受賞した。そのうちの1点が九嶋さんの出品した〈木の葉弁当〉だ。

曲げわっぱの弁当箱は人気商品で、多くの工房が手がけているが、九嶋さんの〈木の葉弁当〉は、蓋を深くして気密性と保温性を高めた工夫と、普段使いの品としての手入れのしやすさ、全体の美しい造形などが高い評価を得た。

曲げわっぱの業界でも以前からグッドデザイン賞を受賞する製品がはじめていて、九嶋さんも自分の作品で挑戦してみたい思いはあったが、手続き方法



九嶋曲物工芸

〒018-3501
秋田県大館市岩瀬字大柳88
Tel. 0186-54-2183
Fax. 0186-54-2166

などが分からなかったため、あきた産業デザイン支援センターに相談をしてみた。センターからは、手続き方法を教えてもらったほか、応募申込書に記入する文言まで具体的にアドバイスを受けた。

〈木の葉弁当〉は、受賞を機にこれから売り出していくつもりでいる。手づくりにこだわるため月産で最大20個から30個程度の生産になり、売価は1万円前後を予定している。

集大成になったグッドデザイン賞受賞

九嶋さんは元々、曲げの技法による茶道具づくりを得意とする職人さんで、この分野の第一人者である。しかし最近では茶道具に限らず幅広い曲げわっぱ製品を製作している。店舗を持っていないため、もっぱら消費地のデパートなどで実演販売をしているが、地元では「たしる温泉ユッブラ」の売店で展示販売している。

年齢的なこともあって引退も考え始めていた矢先だったが、グッドデザイン賞のお墨付きを得て、しばらくは忙しい日々になりそうだ。



- 1 九嶋さんは曲げの技法による茶道具づくりを得意としている。手づくりにこだわる九嶋さんの曲げわっぱは仕上げの丁寧さも定評。
- 2 60年あまり、曲物工芸一筋の一級技能士九嶋郁夫さん。
- 3 工房では九嶋さんと奥さんが分業で作業をする。近年は工房で途中まで作り、デパートで仕上げて売る実演販売の手法をとってきた。
- 4 工房には仕上げを待つ半製品がたくさん。

事業の解説

あきた産業デザイン支援センター事業

伝統的工芸品をはじめとする県内製造業を対象に、産業デザイン・製品開発・マーケティング等について専門的な助言を行います。また、「あきた産業デザイン協議会」と連携し、県内企業への産業デザインの導入を促進します。

【制度の利用・お問い合わせについて】

あきた企業活性化センター／あきた産業デザイン支援センターまで。